こ・こ・ら・ぼ
～こころのコラボレーション～

スクールサポーター
（臨床心理士・公認心理師）
小林　真理

中学生の声をきく

「ねぇ先生、無性にむかついたり、集中できない時とかに、教室ではなくて、いられる居場所ができるといいと思うんだよ。自分の机のところで伏せていたら、みんなが『大丈夫？大丈夫？』って声をかけてくれるんだけど、それもかけてほしくないし。○○先生も『そんなに疲れているなら帰ってもいいですよ』って言ってくれたけど、そんなことでいちいち帰っていたら、しょっちゅう帰ることになっちゃう。学校の中で授業中ぬけてもいい場所があれば、もっと学校生活が楽に送れるのに」と、話してくれた中学生がいます。他にも「『頑張れ！』って言われるけど、これ以上、どう頑張ればいいのかわからない。頑張れていたら頑張るし」と、話してくれた他の中学生もいます。

一方で「□□、頑張れ！頼んだぞ！」とクラスメイトから励まされたことを「なんで自分だけが頑張らなくちゃいけないのか」と捉えてしまうような中学生もいます。この中学生はこの時のことを「急にプレッシャーに感じてしまって嫌だった」と、応援されたことに緊張してしまったとのことでした。

また、「そんなのやったっけ？って、過去のことを少し忘れて困ることがある。それで、自分で『頭の悪い理由』を考えたら、おばあちゃん（認知症を患っている方）より記憶力が悪いんじゃないか、って思うんだ」と、自分の身の回りで比較できるところで、必要以上に自己肯定感の低さを感じている中学生もいました。この生徒については、『頭が悪い』のではなく、本人の特性から忘れやすさが生じてしまい、特に学習面で困ることもある、ということを説明しました。すると「あぁ、そういうことか。確かにみんなの流れを見ていれば動けて困らない」と自分の「できる」部分にも目を向けることができました。

ほんの一部にはなりますが、彼ら彼女たちと話していると、中学生なりの観点で精いっぱい、生活している様子が伝わってきます。良かれと思って声をかけても、反対の意味で捉えられたり、追い詰められたと捉えられたり、中学生だからこその捉えの狭さや偏りがあるのも当然です。ここまでに挙げた中学生の他にも「親に『そっとしておいて』と言いたいけど、そんなこと言ったら、大丈夫？具合悪い？甘えてんじゃないの？とか、いろんな方向からいろいろ言われそうだから、何も言えない」と話していた子どももいました。

今回は、私が関わる中学生の声の一部ですが、まだまだいろいろな「頑張り」をしている子ども達がいます。でも中学生だけではなく、大人も頑張っていますし、みんながそれぞれ頑張っています。そういった頑張りの声をきく機会を大切にしていくことも心掛けていきたいものですね。

過去の『こころぼ』は町ホームページからご覧になれます。

公立小中学校において実施しているシェフ給食のシェフを公募します

●事業内容

町内のホテル・レストランのシェフによるレシピ提供給食を通じて、食育の充実や地元食材の利用促進、食への感謝の気持ちを育むこと等を目的に令和6年2月より実施しています。監修いただくシェフには小中学校の給食1食分の献立を立案していただきます。

この度、令和8年度に監修していただくシェフを公募します。

●応募要件

監修シェフは次の要件を満たし、本事業を理解する方

①町内のホテル・レストランでシェフをされている方

②学校給食の特殊性を理解して献立を立案してくださる方

●公募人数　3名

●応募期間　1月5日(月)から2月13日(金)　17時まで

●応募方法

左記の二次元コードを読み取り応募してください。詳しくは町ホームページをご覧ください。

町ホームページ

応募フォーム

【問い合わせ】こども教育課　学校教育係　☎45-8672

軽井沢町私立等小中学校食材費給付事業を実施しています

令和7年11月号の広報かるいざわでお知らせした「軽井沢町私立等小中学校食材費給付事業」の対象の方で、まだ申請されていない方は、左記の二次元コードから申請してください。

●申請期限

1月30日(金)　17時まで

※電子での申請ができない場合は、申請書兼請求書を記入し左記まで提出してください。（申請書兼請求書はホームページよりダウンロードするか、こども教育課窓口で配布します）

※申請期限以降の申請については給付金の支給ができません。申請期限内に申請をしてください。

町ホームページ

申請フォーム

【問い合わせ】こども教育課　学校教育係　☎45-8672